



顕微鏡事業100周年 特別企画

2025年、顕微鏡事業が100周年を迎えます。
1925年にニコン初の顕微鏡「JOICO顕微鏡」の誕生から紡いできた100年の歴史。
その名を冠した「NIKON JOICO AWARD」は、2019年にスタートし、今年で7年目を迎えます。
記念すべき100周年の節目に、NIKON JOICO AWARDを過去に受賞された方の歩み、
そしてご研究の軌跡をたどる特別企画を開催いたします。

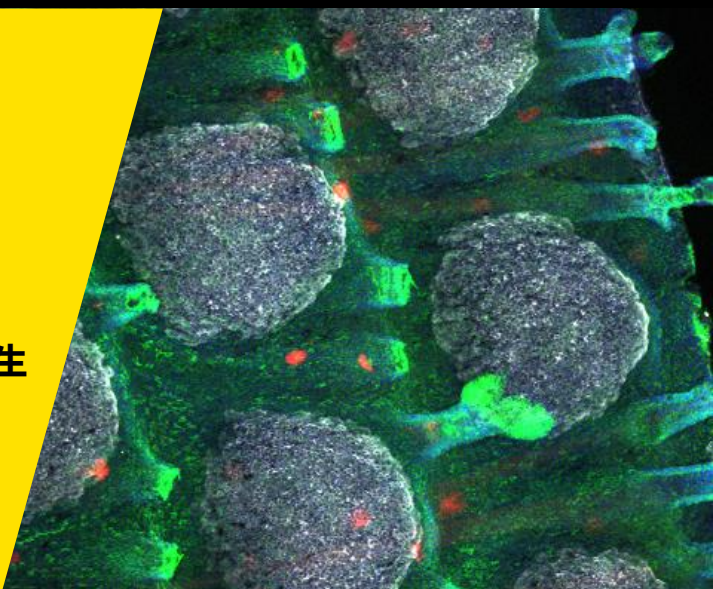
『受賞者の今』

2025.12.12 (FRI) 16:00 START

**皮膚再生・老化を司る
幹細胞ダイナミクス**
～見ることで見えてくる
表皮幹細胞の不思議～

佐田 亜衣子 先生

九州大学
生体防御医学研究所
皮膚再生老化学分野
教授



皮膚は絶えず細胞が入れ替わる再生力の高い臓器であり、その中心的役割を担うのが表皮幹細胞である。我々はこれまでに、マウス皮膚において分裂頻度の異なるDlx1陽性およびSlclα3陽性幹細胞を同定し、加齢や炎症による幹細胞集団の変容を見出した。本講演では、研究者としての歩みとともに、イメージングによって幹細胞の動態を“見る”ことで分かってきた皮膚再生・老化の仕組みを紹介したい。

○開催方法

事前申込制/Zoom(無料)

○お問合せ

株式会社 **ニコン ソリューションズ**

バイオサイエンス営業本部
E-mail: Nsl-bio.Marketing@nikon.com

お申込みはこちら





NIKON JOICO AWARD

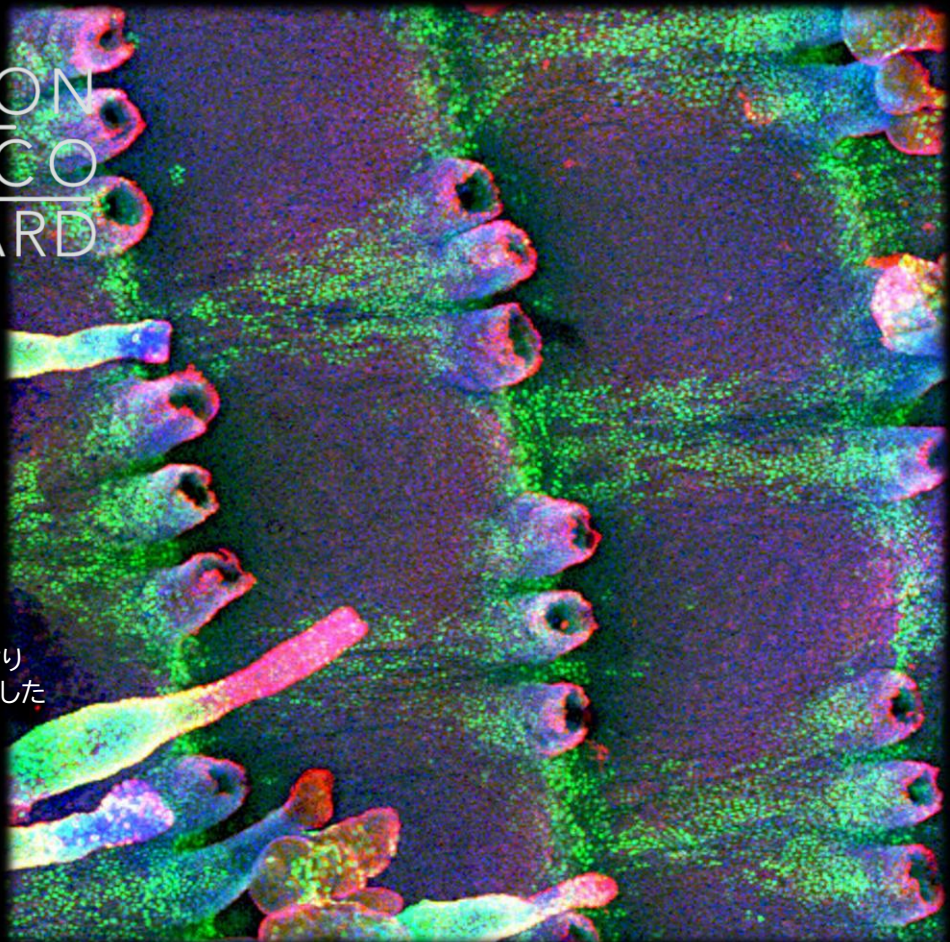
2020 最優秀JOICO賞

皮膚再生を司る
上皮幹細胞コンパートメント
～見ることで見えてくる
幹細胞の不思議～

不均一な幹細胞集団が
皮膚の中で規則的なパターンを作り
高度に領域化していることを発見した

マウス由来皮膚

サンプル詳細:
H2B-GFP tet-off マウス由来尾部皮膚
緑: H2B-GFP (分裂頻度の低い細胞)
赤: K14 (表皮細胞マーカー)
青: 核染色
観察手法: 共焦点顕微鏡、倒立、蛍光
観察倍率: 10X
撮影年: 2014年
顕微鏡データ: 静止画



ご経歴

2023年～現在 九州大学 生体防御医学研究所 教授
(幹細胞生物学の視点から皮膚再生・老化メカニズムに関する基礎医学研究)

2019年10月～2023年6月 熊本大学 国際先端医学研究機構 特任准教授 (独立)

2016年4月～2019年9月 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 助教
(柳沢裕美教授研究室で皮膚再生・老化過程における細胞外環境について研究)

2011年4月～2014年3月 HFSP長期フェローシップ

2011年4月～2016年3月 米国コーネル大学博士研究員
(Tudorita Tumber教授研究室で表皮幹細胞の同定に関する研究)

2011年3月 総合研究大学院大学 生命科学研究科遺伝学 専攻修了 博士 (理学)
(相賀裕美子教授研究室で精原幹細胞におけるRNA結合タンパク質Nanos2について研究)

2006年3月 静岡大学 理学部 生物地球環境科学科 卒業

ご受賞歴

2021年 NIKON JOICO AWARD 最優秀賞 JOICO賞

2021年 令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞

2019年 令和元年度熊本大学女性研究者賞表彰